

## SICE 北海道支部だより

# 「第46回計測自動制御学会北海道支部学術講演会」

鈴木 恵 二\*

\* 北海道大学大学院情報科学研究科 北海道札幌市北区北 14 条西 9 丁目  
 \* Graduate school of Information and Technologies, Hokkaido University,  
 North 14 West 9, Sapporo, Hokkaido, Japan  
 \* E-mail: suzuki@complex.ist.hokudai.ac.jp

JL 0007/14/5307-0642 ©2014 SICE

北海道支部の大きな行事として、毎年3月に開催している学術講演会があります。今年は3月9日、10日の2日間で行いました。本講演会の特徴として、数年前より、「ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会学術講演会」との併設行事として開催しております。SICE 会員とロボット学会会員の両方に入っている研究者も多く、併設化により両方への参加も容易になるメリットが得られております。

今回の講演会の特別講演として、公立はこだて未来大学の和田雅昭教授をお招きし、「ここまでできる海の情報活用技術」と題して講演いただきました。和田教授は、公立はこだて未来大学に着任してから、「マリン IT」分野を立ち上げ、さまざまな取り組みで成果を上げ、その貢献により2013年2月には平成24年度北海道科学技術賞を受賞されております。なお、和田教授は、前職の株式会社東和電機製作所にて、日本科学未来館の企画展「THE 世界一展～極める日本!モノづくり～」(2013年12月7日～2014年5月6日)でも展示された「はまで式全自動イカ釣り機」の開発にも携わっており、私たちが食べているイカの7割ぐらいは、和田教授の開発したこの機械でつり上げられたものだそうです。今回の90分間の講演会では、タブレットアプリによる北海道留萌におけるナマコ資源管理、海洋ユビキタスナビの開発と設置による海中水温の見える化、航路情報の共有など、日本のみならず世界的な研究活動の中からさまざまな話題をお話していただきました。その中の話題の一つとして、北海道留萌の新星マリン漁業協同組合留萌地区なまこ部会では、ナマコ漁の資源枯渇を危惧しながらも、これまで、資源量推定結果が2ヶ月間の漁期後にしかわからないといった問題に対して、和田教授はリアルタイムに資源量を推定する方法とその活用アプリの開発を行いました。小型漁船の位置をリアルタイムで収集する組み込み機器の「ユビキタスナビ」、iPadのアプリとして操業中の漁獲量を簡易に入力することができる「デジタル操業日誌」、および各漁船がどこで操業を行ったのか可視化するアプリ「marine PLOTTER」を開発されました。これらの機器とアプリの背後で、資源量推定アルゴリズムを動かすことにより、漁業操業者はリアルタイムに、どこの沿岸でどれだけの資源が残されているか情報を手にするこ

とができるようになり、漁業者主体の資源管理が実現されているとお話でした。この講演会の内容に相当する記事として、オンラインの「産学連携ジャーナル」<sup>1)</sup>にも取り上げられているので、もしご興味があれば参照していただければ幸いです。



図1 和田教授による特別講演のようす

講演会そのものは、発表件数41件、参加者数約100名、ロボット技術研究専門委員会学術講演会側が発表件数26件、参加者約40名と、北海道支部の講演会としては盛況な部類に入るものとなりました。セッションとしては、「制御系設計」、ロボット応用とセンシング、「ヒューマンセンタードシステム」、「ソフトコンピューティング」、「人間計測技術とその応用」といった多岐にわたるものとなり、各発表に活発な議論が交わされておりました。

またこの講演会開催中に、今年度札幌で開催されるSICE2014(9月9日～12日)の実行委員会も行われ、開催に向けての準備の進捗など、話し合いを進めました。9月の札幌は大変良い時期でもあります。本稿を読んでいるころは、ちょうど開催直前かとおもいます。ぜひ来道いただき、活発な研究交流とともに、秋の幸に恵まれた北海道を堪能していただければと願っております。

最後に日頃より、北海道支部の活動にご尽力、ご協力いただいている会員の皆様に感謝をもって、北海道支部の報告とさせていただきます。

(2014年5月12日受付)

### 参考文献

- 1) 「広がる IT 漁業の輪—リアルタイムで情報収集・解析—」, 産学官連携ジャーナル, 2013年9月号, [http://sangakukan.jp/journal/journal\\_contents/2013/09/articles/1309-04-2/1309-04-2\\_article.html](http://sangakukan.jp/journal/journal_contents/2013/09/articles/1309-04-2/1309-04-2_article.html)